2019 年 12 月 10 日

報道機関　各位

東北大学病院

本邦病院初となる課題解決型研究開発実証フィールド「オープン・ベッド・ラボ」を開設

-東北大学病院 Smart Hospital Project-

東北大学病院（所在地：宮城県仙台市、病院長：冨永悌二）は、本院におけるスマートホスピタルの実現に向け、本邦病院初となる課題解決型研究開発実証フィールド「オープン・ベッド・ラボ（OPEN BED Lab：以下 OBL）」を 2020 年 1 月 1 日付で開設します。

OBL は本院病棟の一部をテストサイトとして企業に貸与し、医療機器や医療システム・サービス等の共同研究開発を実施する課題解決型研究開発実証フィールドです。実際の医療現場を活用し、患者、医療プロフェッショナル、病院経営者の視点を取り入れた実効性のある研究開発を推進することで、少子高齢社会、医療格差、医師の働き方改革等、我が国が抱える医療課題の解決に寄与することが期待されます。

●背景

我が国の医療は、高齢化の進展、医療ニーズの多様化などを背景として多様な課題が浮上しています。働き方改革においては、時間外労働の上限が2024年4月より医師にも適応となる一方で、2040 年には日本の65歳以上の高齢者人口はピークを迎えるとされており、今後は、限られた医療資源の有効活用により、特定機能病院としての責務を果たしながら、医師偏在や地域医療の確保といった東北地区が抱える重要な医療課題に対応していくことが求められます。

このような状況のなか、本院では、医師・看護師・薬剤師・診療技術部等医療プロフェッショナルが本来業務に注力し、効率的かつ安全にやりがいのある医療に従事することで、患者さんが満足できる医療の質とサービスを提供する病院機能を備えることを目指し、2019 年 10 月より東北大学病院スマートホスピタルプロジェクト（図1）を推進しています。

●具体的取り組み

・OBL について

今回開設する OBL は、同プロジェクトの一環として開設するものです。当院はこれまで臨床研究中核病院として、出口戦略を見据えた国際水準の研究開発支援を実施してきました。特に 2014 年 3 月には、医療現場を企業に開放しニーズ探索を行うアカデミックサイエンスユニット（ASU）を開始し、これまで 45 社、延べ1,300名の企業

研究者を受け入れています。OBL は、これらの実績に基づき、さらに次の開発フェーズとなる実証の場を企業に提供することで、社会化・実用化のさらなる加速を目指すものです。

具体的には、本院西病棟 15 階の旧病床機能をテストベッドとして企業に貸与し、共同研究を実施する研究開発実証フィールドとして活用します。医療・ヘルスケアの現場の視点を取り入れることで、医療現場が受け入れやすい要点を押さえた開発が可能となります。また企業同士の協働を創出するオープンスペースも設けます（図2、3）。このような病院の中における公募型のレンタルスペース、課題解決型の実証フィールドの開設は本邦初であり、現在、5 社（※）が入居予定です。OBL は現状で最大 10 社程度の受入れが可能となっており、今後さらに拡充を推進していきます。

・AI Lab について

さらに同日付けで、本院内における AI 開発支援を目的とした「AI Lab」を開設します。AI 開発企業と連携し、課題設定・デザインから介入することで、医療現場で日々起きている課題解決を目指す AI 開発支援に取り組んでいきます。

本院がこれまで積み上げてきた独創的な社会化・実用化支援、産学連携の実績を基盤とし、OBL 及び AI Lab の相乗効果によって、我が国の医療が抱える多くの課題解決を目指し、明るい未来の医療の実現に貢献してまいります。

※入居予定企業（本日現在）

サスメド株式会社、Search Space 株式会社（サーチスペース）、大日本住友製薬株式会社、株式会社フィリップス・ジャパン、株式会社ユーグレナ

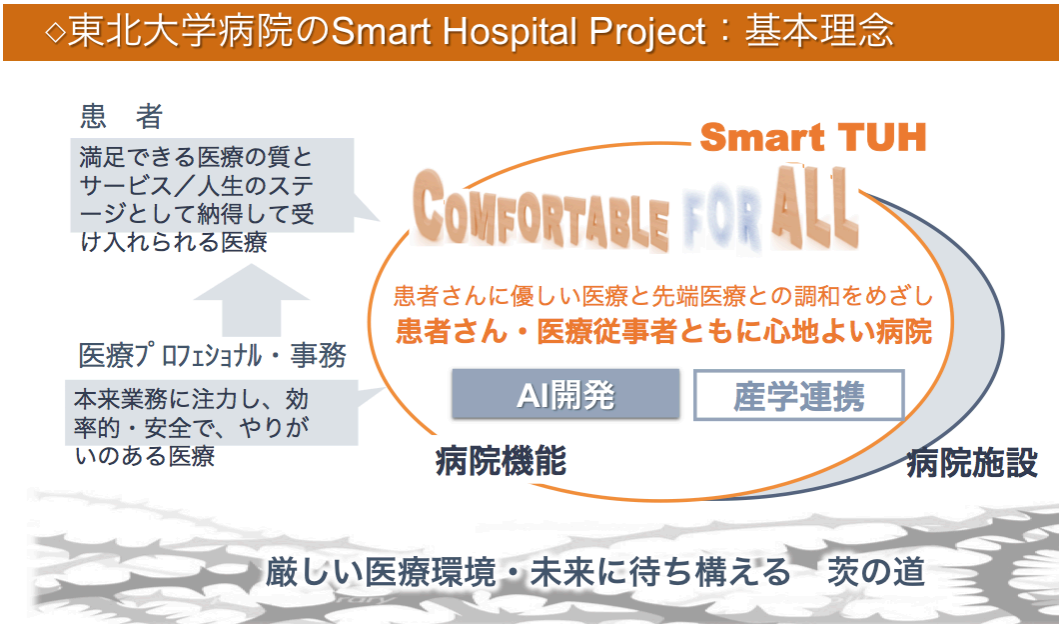

図1　東北大学病院スマートホスピタルプロジェクト

図 2　OPEN BED Lab 概要

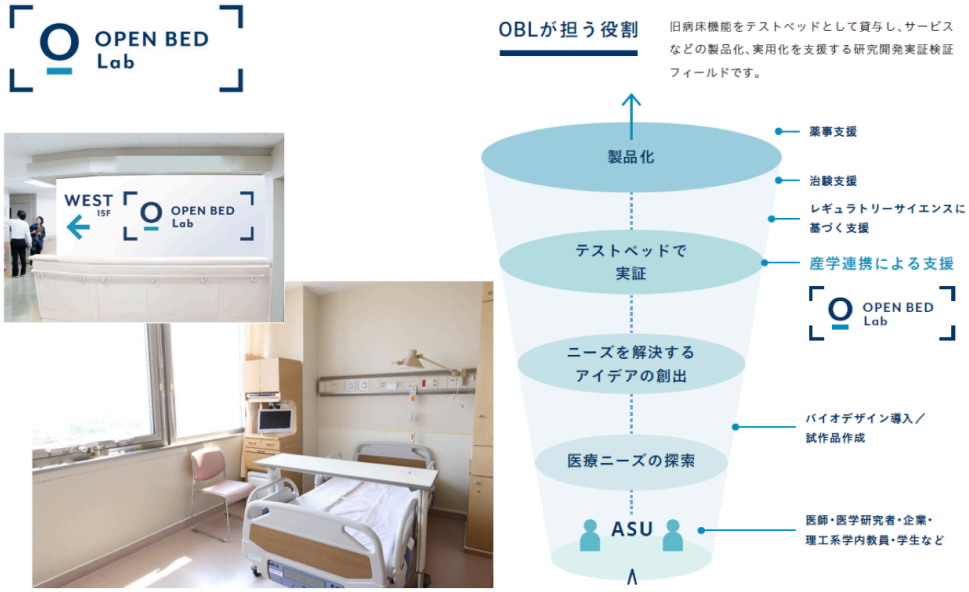

図 3　OPEN BED Lab の役割

【問い合わせ先】
東北大学病院　広報室
電話：022-717-7149
E-mail：pr@hosp.tohoku.ac.jp